



「コミュニティバンクにおけるITサービス革新」

2015年7月9日

朝日信用金庫

三澤 敏幸

toshiyuki.misawa@asahi-shinkin.co.jp

目次

1. コミュニティバンク（信用金庫）の課題とITサービス革新の方向性

1-1. コミュニティバンクの現状

1-2. コミュニティバンクの果たすべき役割と経営に求められる要件

1-3. コミュニティバンクの特性を發揮したITサービス革新の方向性

2. 当金庫の現状

2-1. 当金庫概要

2-2. 当金庫が自営システムを継続する目的

3. 当金庫のIT革新に向けた取組み

3-1. 顧客フロントラインの強化と経営効率向上の実現（次世代営業店システム）

3-1-1. 金融機関全体の適材適所化による事務処理体制の抜本的な見直し

3-1-2. 事務処理の自動化・効率化による店頭セールスの強化と経営効率向上

3-1-3. モバイルデバイスを活用した店外活動支援に向けて

3-2. 異業種コラボレーションによる効果的なマーケティングの実践

3-3. 業界の枠を超えたオムニチャネル戦略

3-4. オープンデータを活用したリレーションシップバンキング高度化戦略

1. コミュニティバンク(信用金庫)の課題と ITサービス革新の方向性

「裾野金融」

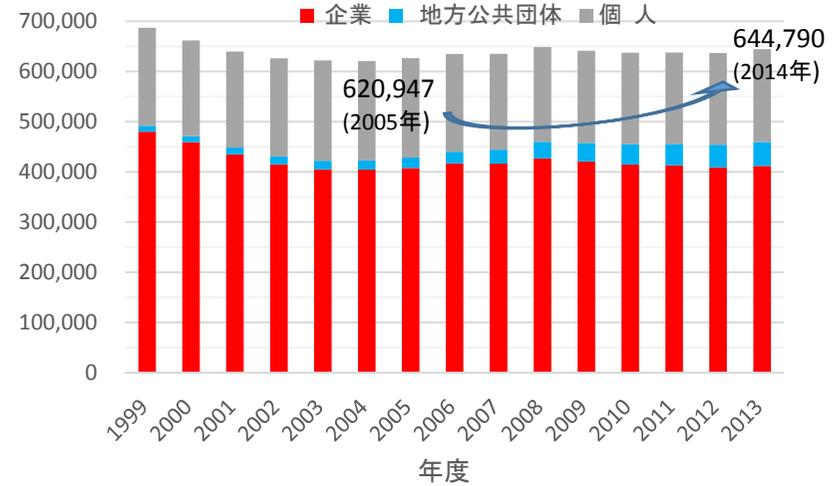
信用金庫の使命は、「富士山の秀麗な姿には誰も目を奪われるが、白雪の覆われた気高い頂は大きく裾野を引いた稜線があってこそそびえる。日本の経済もそれと同じで、大企業を富士の頂だとしたら、それを支える中小企業の広大な裾野があってこそ成り立つ。その大切な中小企業を支援するのが信用金庫であり、その役割は大きく、使命は重い。」

1-1. コミュニティバンクの現状①

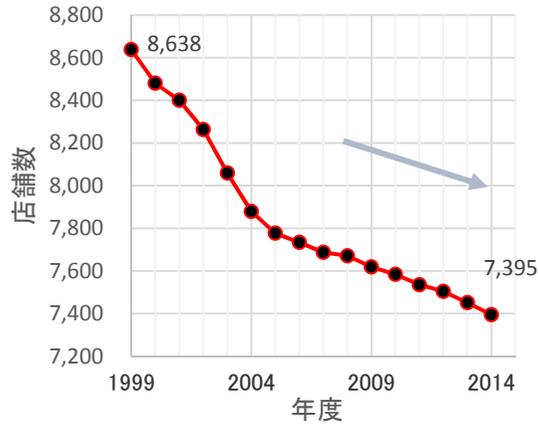
信用金庫の預金種別別預金 (単位:億円)



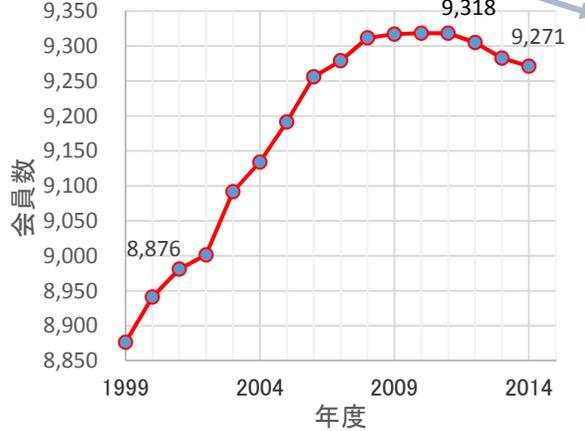
信用金庫の貸出先別貸出金 (単位:億円)



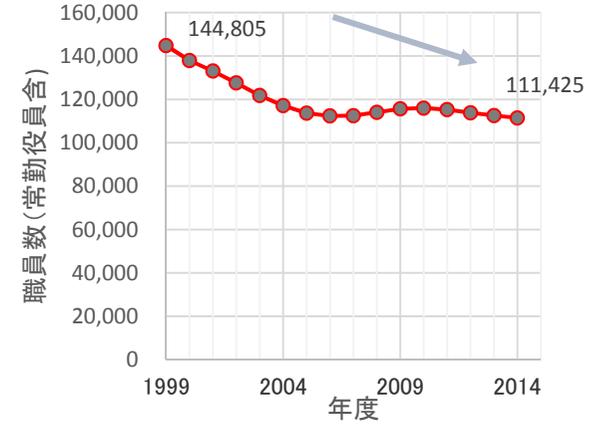
信用金庫の店舗数 (単位:店)



会員数 (単位:千)



常勤役員数計 (単位:人)

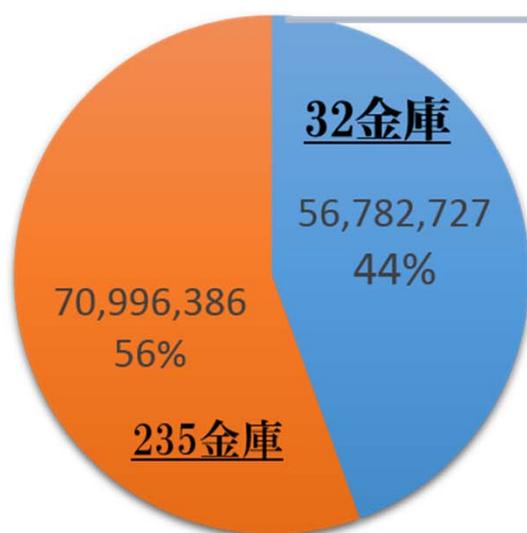


出典:信金中金 地域・中小企業研究所「ウェブページデータより
<http://www.scbri.jp/toukeimokuji.htm> 毎年3月時点をクリップ。
 2000.3~2015.3 まで

1-1. コミュニティバンクの現状②

兆円金庫(メガ金庫)や、都心部に「人」、「資金」が集中する傾向にある。

兆円以上預金残高
(単位:百万円、%)



兆円以上金庫の貸出金残高
(単位:百万円、%)

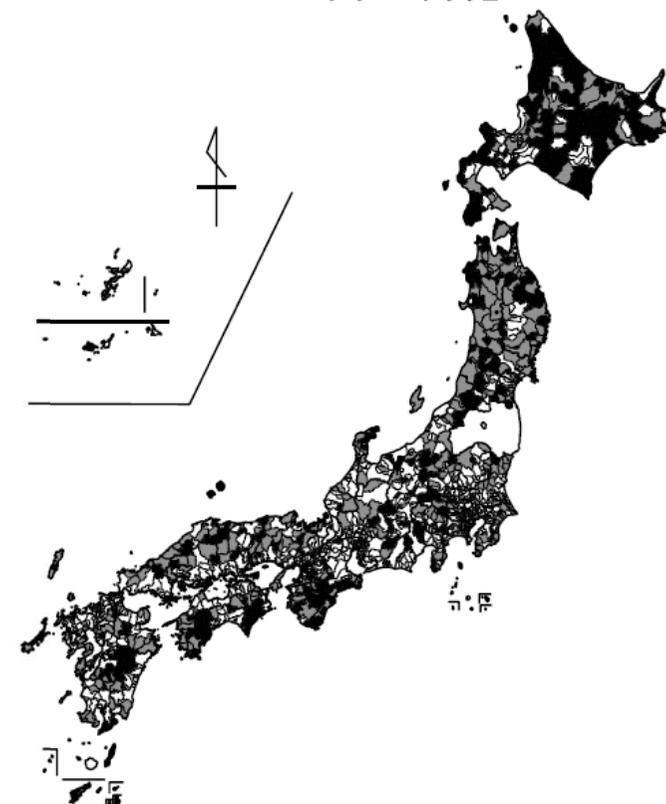


- 預金残高1兆円以上金庫 取扱い預金総額
- 預金残高1兆円未満金庫 取扱い預金総額

- 預金残高1兆円以上金庫 取扱い貸出金総額
- 預金残高1兆円未満金庫 取扱い貸出金総額

出典:「全国267信金の経営指標(2014年3月期)」より

2040年 消滅可能性都市
「896市区町村」

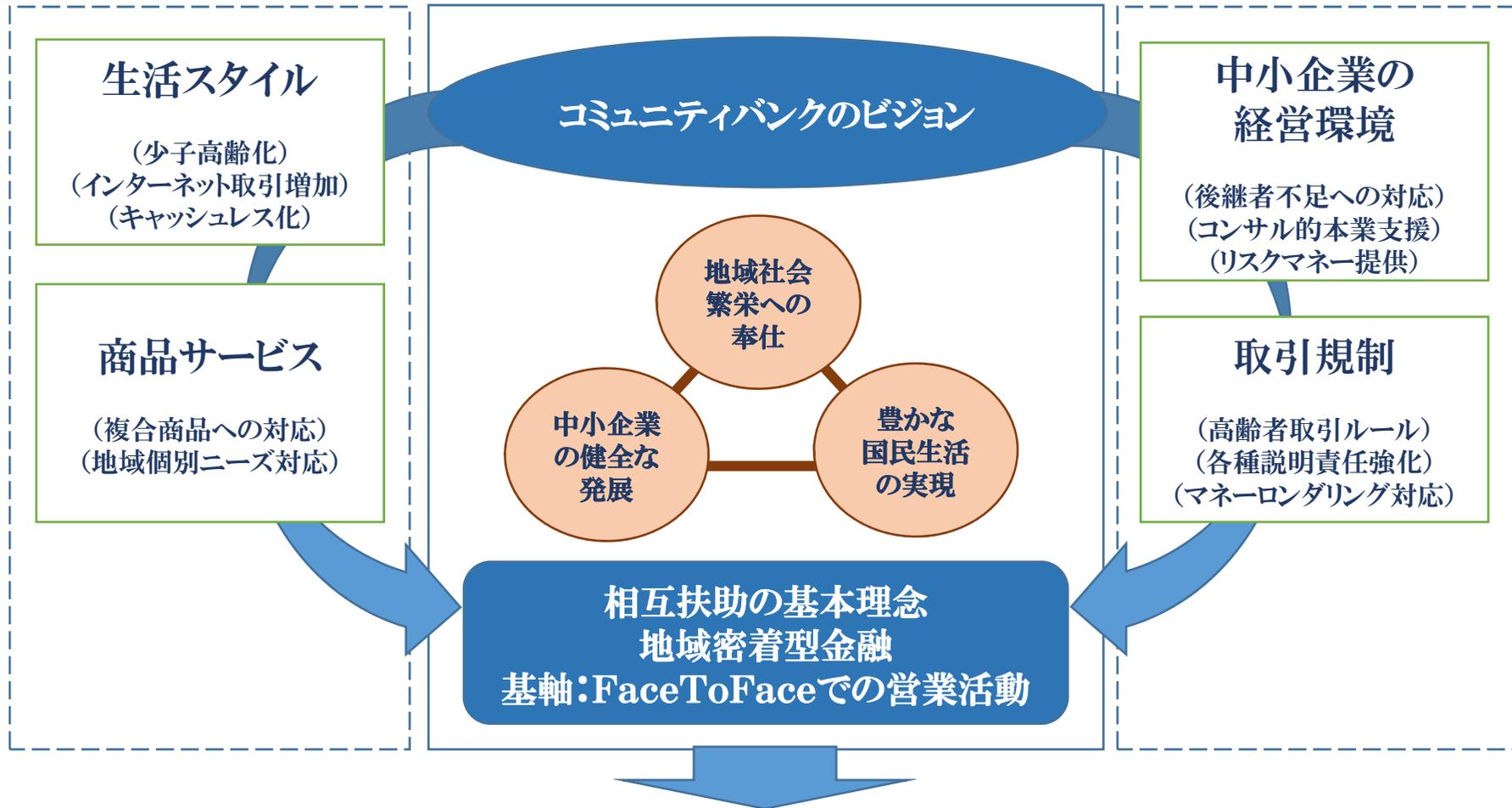


消滅可能性都市のうち、2040年に人口が1万人未満の市区町村(523)
消滅可能性都市のうち、2040年に人口が1万人以上の市区町村(373)

* 福島県は調査対象外

出典:一般社団法人北海道総合研究調査会(HIT)作成

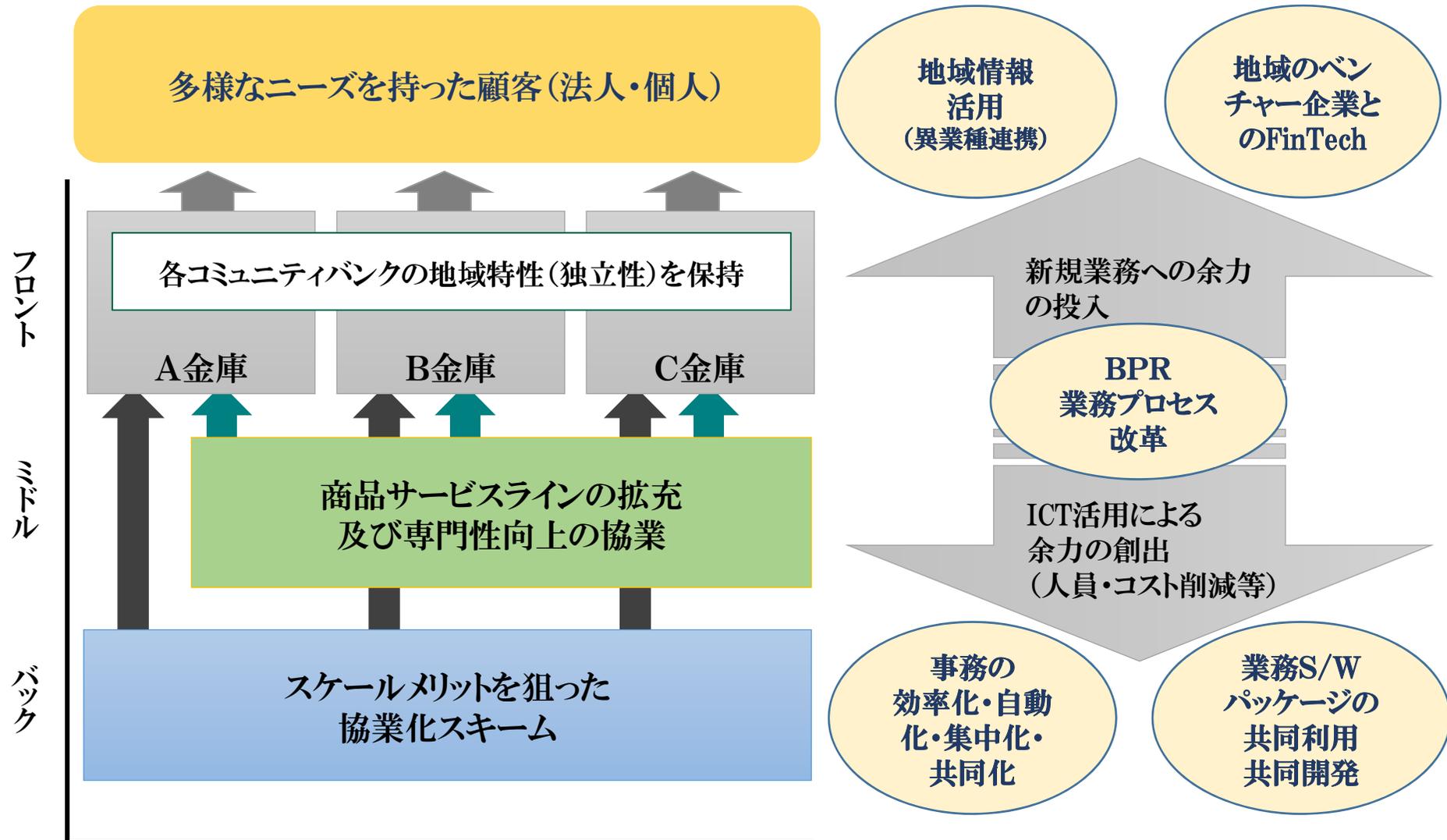
1-2. コミュニティバンクの果たすべき役割と経営に求められる要件



＜裾野金融としてのコミュニティバンクに求められる要件＞
ホスピタリティ溢れる木目の細かい顧客フロントサービスの提供
ローコスト・少数精鋭のスピード経営による地域経済への貢献

1-3. コミュニティバンクの特性を発揮したITサービス革新の方向性

BPRで余力を創出。フロント系に人材を集中投下。守りのIT投資から、攻めのIT投資へ。



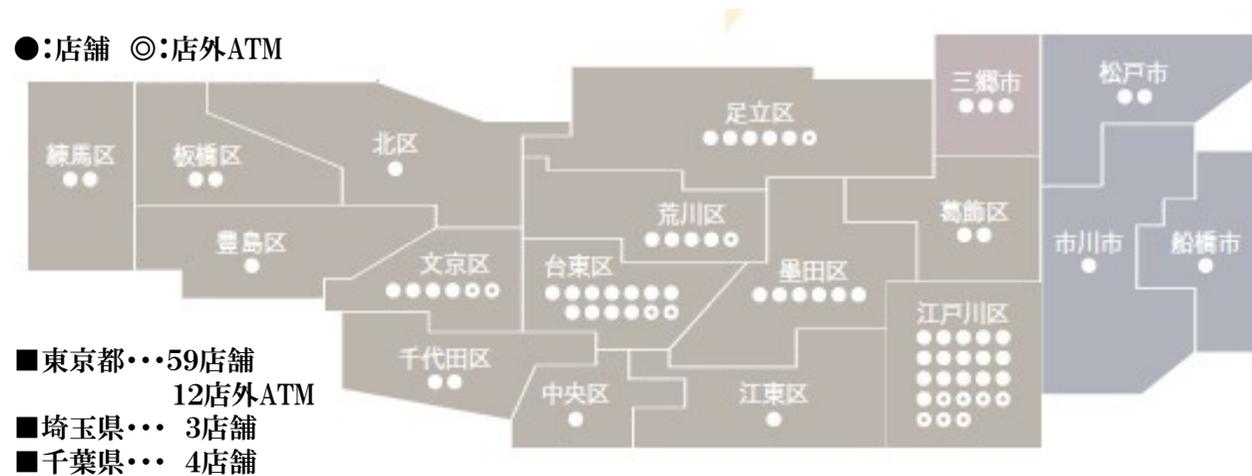


2. 当金庫の現状



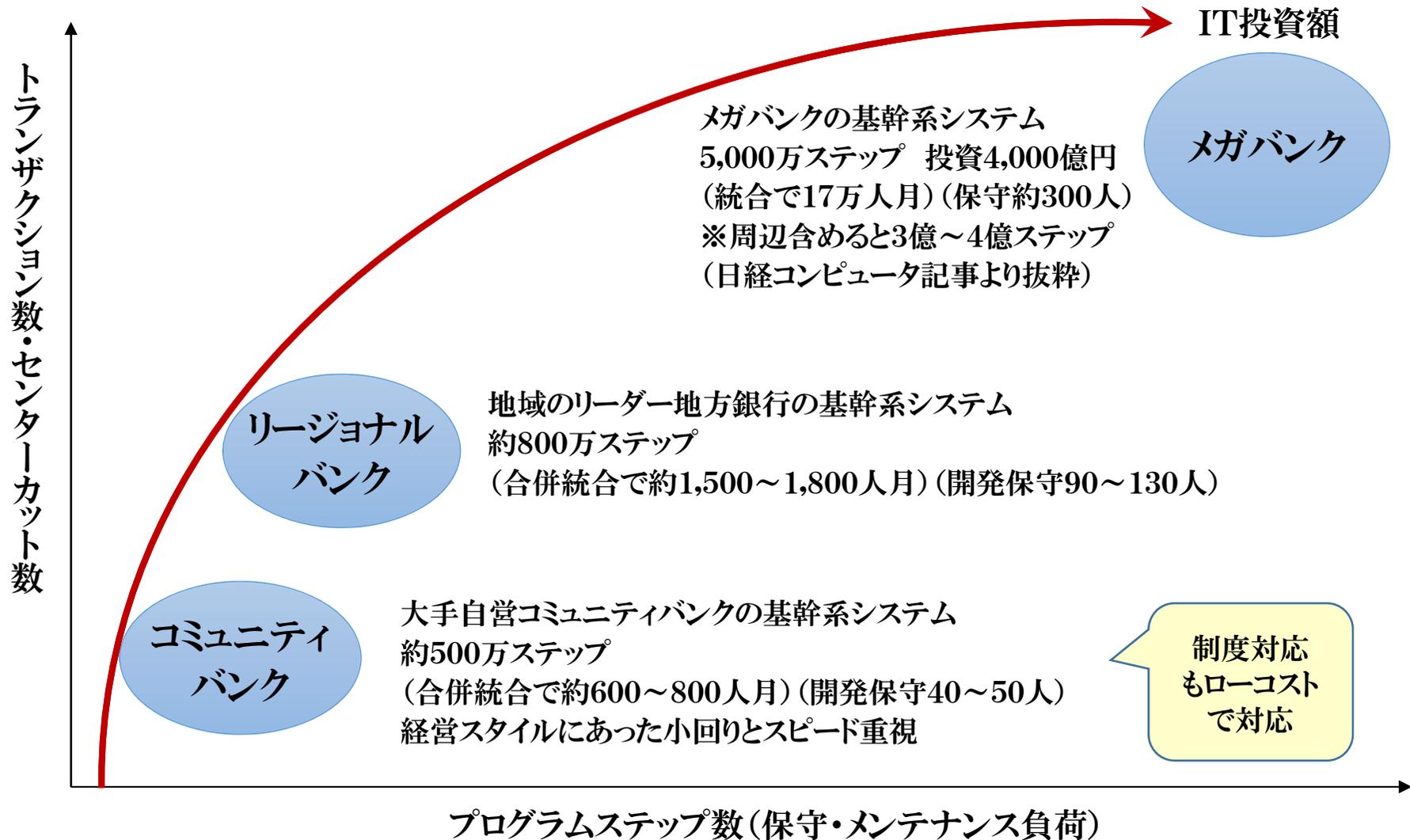
2-1. 当金庫概要

1	設立	設立:大正12年8月3日 本店:東京都台東区台東2-8-2
2	資金量	1兆8,210億円
3	店舗数	66店舗(うち有人出張所4)
4	職員数	1,530名
5	中期経営計画テーマ	「“飛翔”～育みと創造の金融を目指して～」



2-2. 当金庫が自営システムを継続する目的 ①

コミュニティバンクの経営スタイルに合った適正規模のシステムを利用すれば自営継続は可能



2-2. 当金庫が自営システムを継続する目的 ②

ITを活用して事務やサービスの革新を行うためには、システム全体のITガバナンスが必要。

競合優位性を発揮するための独自戦略実行項目(例)

①店舗構成

- ◆店舗構成(母店化、店舗階層化)
- ◆機能別店舗
- ◆営業(渉外)戦略店舗(母店化、法人特化)
- ◆ダイレクトチャンネル店舗
(異業種連携含む)
- ◆店舗統廃合(大量移管等)

②運用形態

- ◆店別の店舗営業時間の設定
- ◆店別の店舗祝祭日営業の設定
- ◆戦略的ATM運用(配置)

③商品

- ◆複合商品、提携商品
(異業種連携含む)
- ◆優遇商品(金利、ポイント制 etc.)
- ◆地域特殊対応の口座振替
- ◆地域通貨、地域企業との業務連携機能

④事務処理拠点

- ◆多量事務の集中化、集中処理の再分散化
- ◆集中処理業務の垂直・水平提携

⑤営業体制

- ◆渉外の祝祭日活動
- ◆融資決済権限の見直し
- ◆窓口取扱商品の多様化
- ◆リモートコミュニケーション

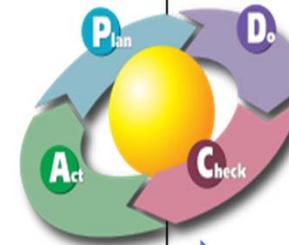
⑥営業店事務処理

- ◆事務の標準化、簡素化
- ◆事務レス化

⑦顧客管理

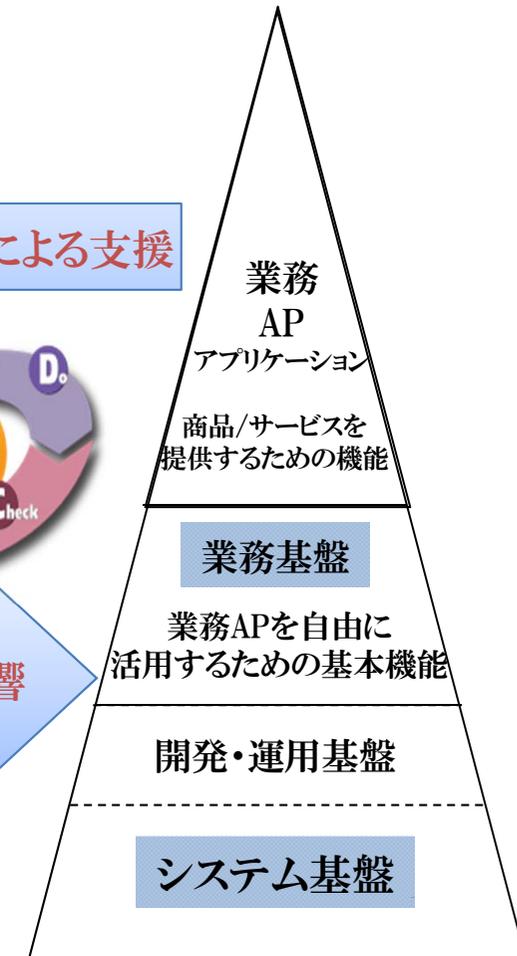
- ◆顧客誘導
- ◆他チャンネル取扱情報(共有)
- ◆複合商品、提携商品等販売後の
アクション(期日)管理

システムによる支援



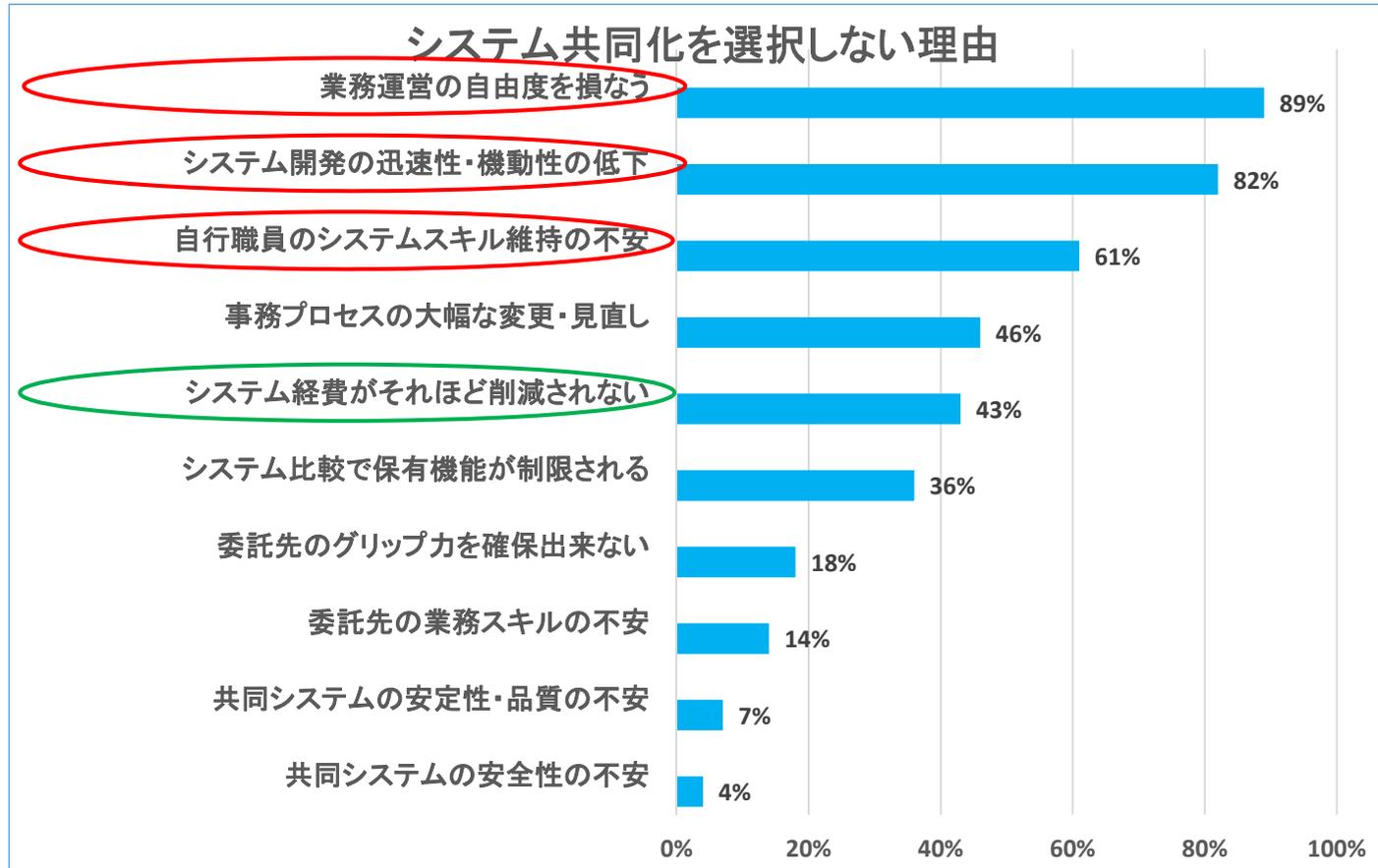
システムへの影響

情報システム



2-2. 当金庫が自営システムを継続する目的 ③

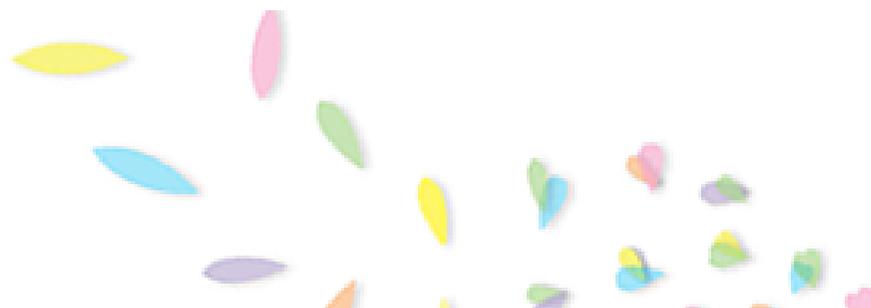
ホスピタリティ溢れる木目の細かい顧客フロントサービスの提供と、ローコスト・少数精鋭のスピード経営を実現のためには、システム構想力のあるIT人材を自金庫内に保有することが得策



出展 日本銀行：金融機関におけるシステム共同化の現状と課題



3. 当金庫のIT革新に向けた取組み



3-1. 顧客フロントラインの強化と経営効率向上の実現(次世代営業店システム)

■次世代営業店システム構築のねらい

「事務そのものは収益を生まない」⇒「全職員一丸となった営業活動の推進を目指す」

①徹底したシステムによる自動化・効率化(BPR)の推進

- ・ローカルルールの撤廃
- ・顧客や行職員に対するおもてなしに通ずる(入力チェック)機能搭載
- ・徹底した自動化

②既成概念から脱却したイノベーションの推進

- ・一線処理のほぼすべての業務をリアルタイムにバックオフィスセンター(以下BOC)で処理
- ・取引先ベンチャー企業とタイアップしたタブレットソリューションの開発(FinTech)

③リアルタイムな情報の活用推進

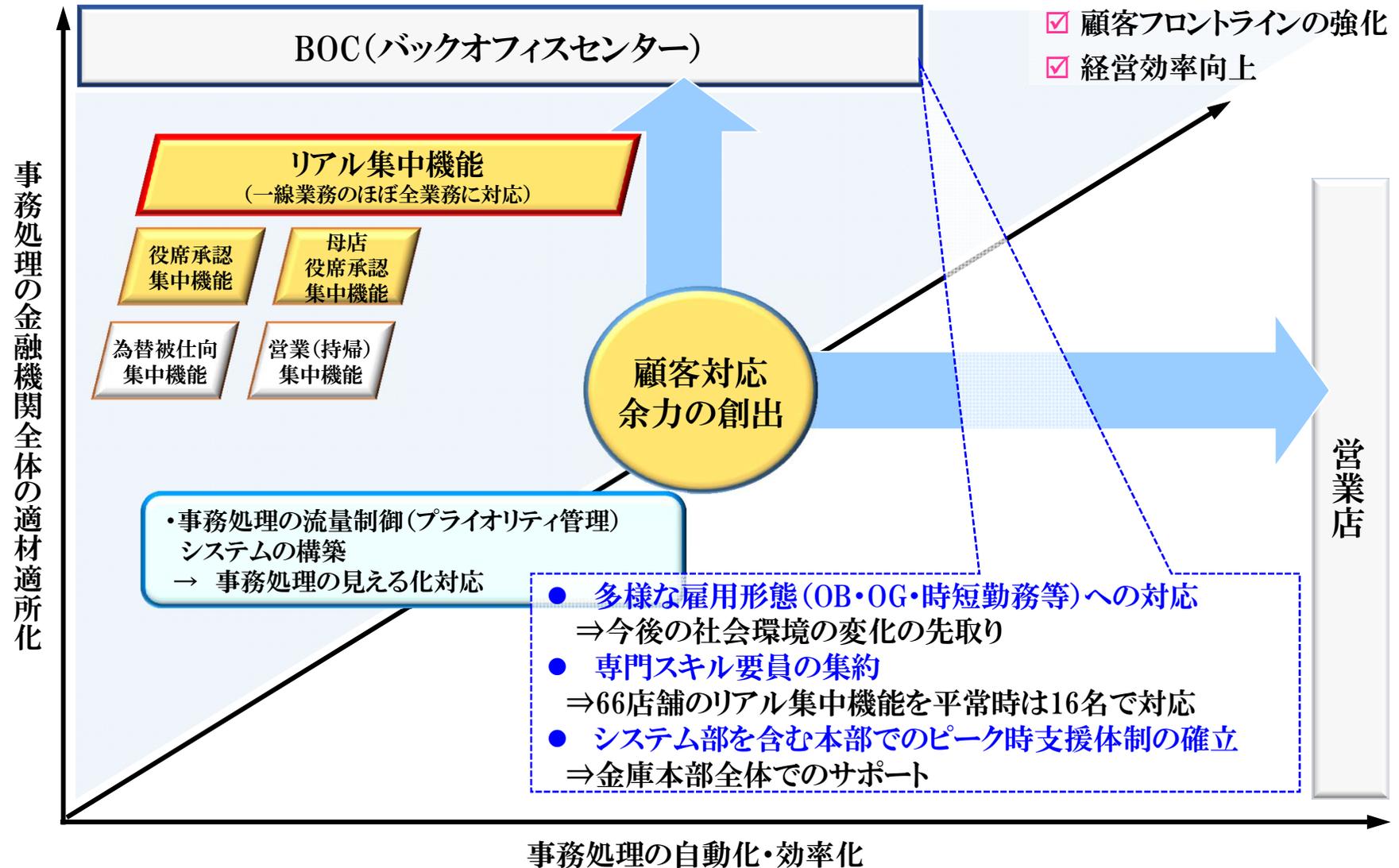
- ・基幹勘定系と連動したニアリアルデータベースを活用したデータの最適利用環境の実現

④経営戦略とIT戦略の融合(経営への貢献)

- ・戦略的な顧客フロントラインの強化
- ・金庫全体の人件費削減
- ・GRC(Governance・Risk・Compliance)の強化
- ・BOCによる多様な雇用形態の活用
- ・行職員の意識改革

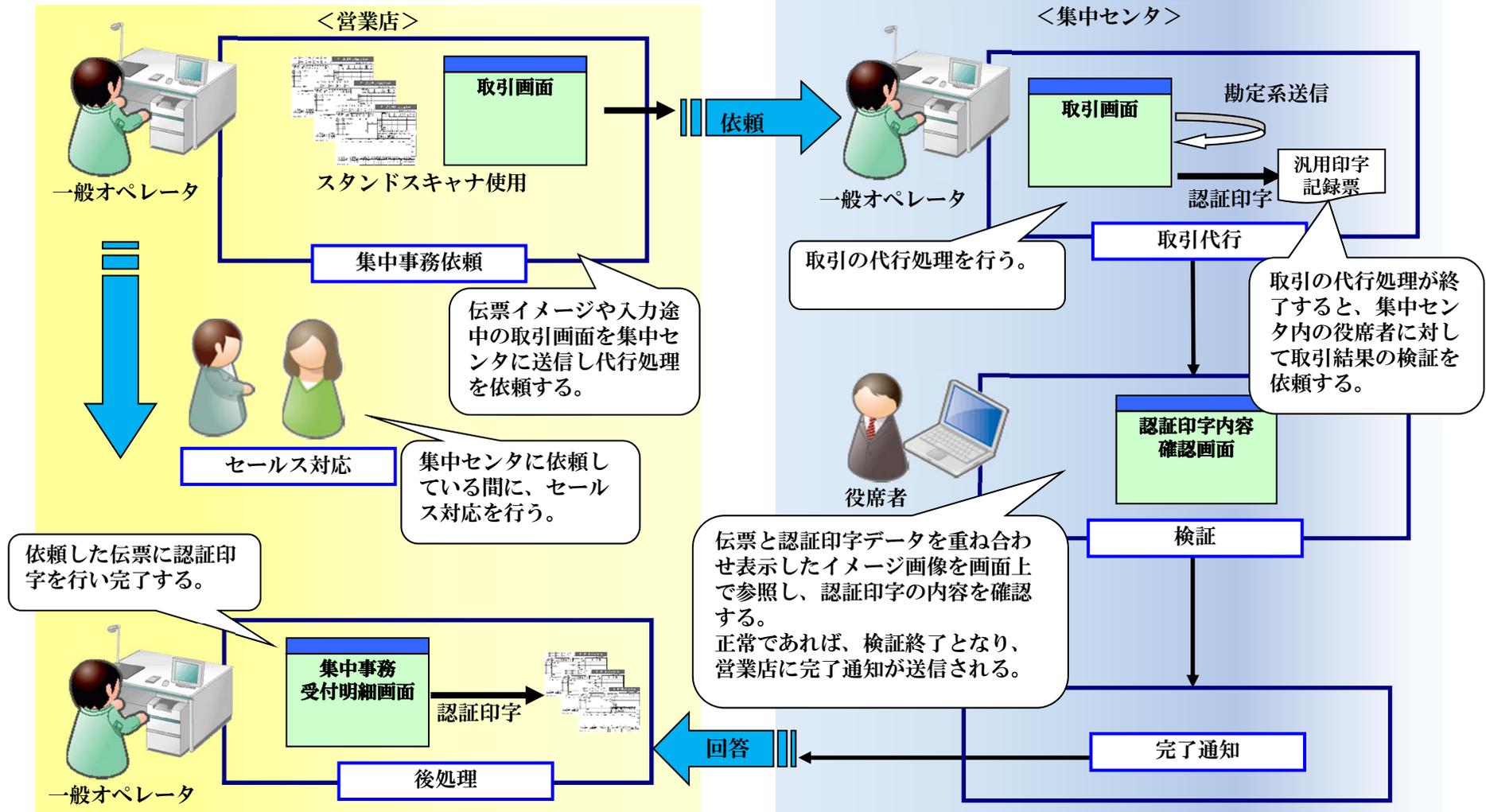
3-1-1. 金融機関全体の適材適所化による事務処理体制の抜本的な見直し

【フェーズ I】 リアル集中機能による顧客対応余力の創出



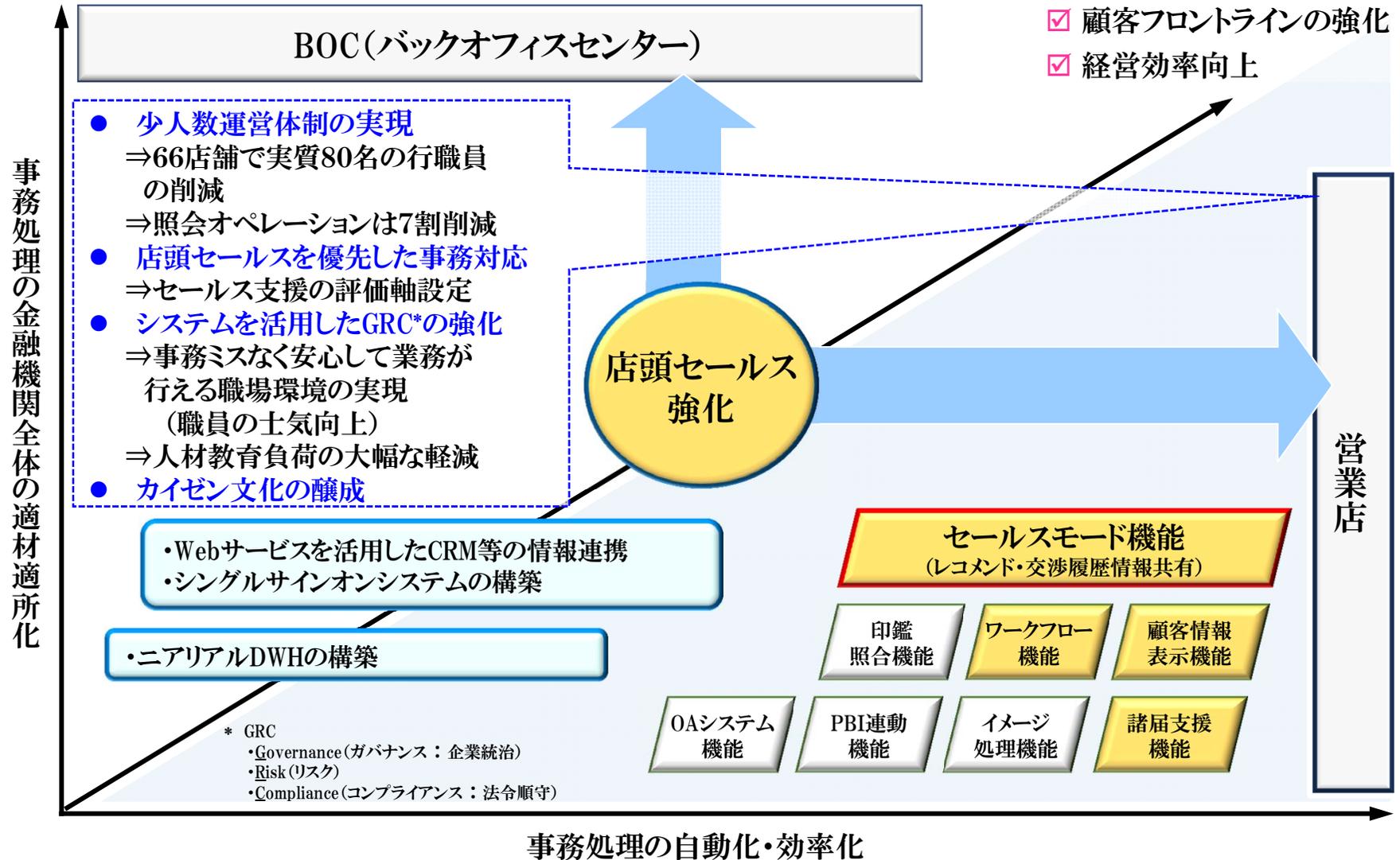
＜ご参考＞ リアル集中機能概要

リアル集中依頼では、集中センターでの取引代行・検証の実施後に、営業店で後処理を実施。



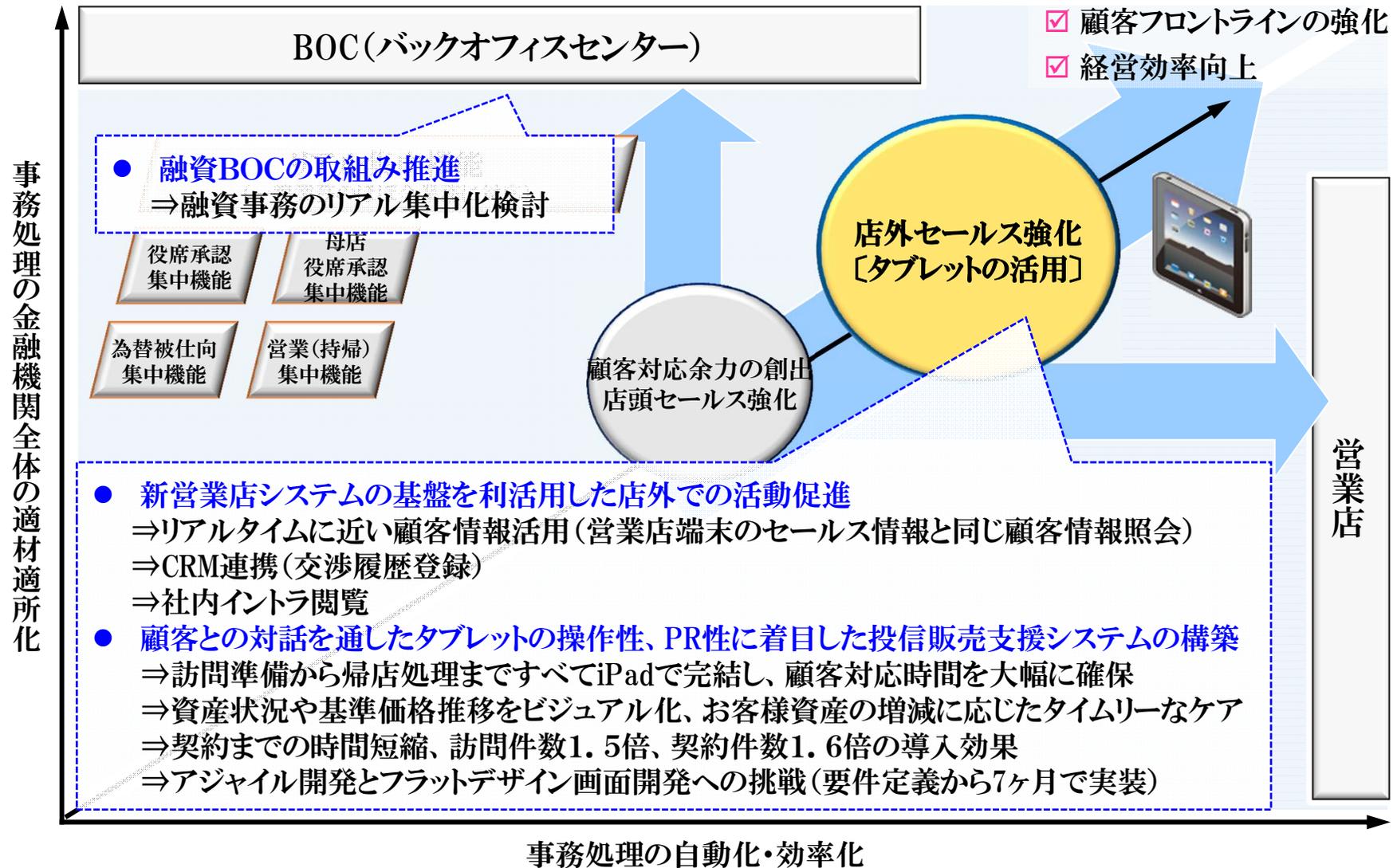
3-1-2. 事務処理の自動化・効率化による店頭セールスの強化と経営効率向上

【フェーズII】 店頭セールス強化



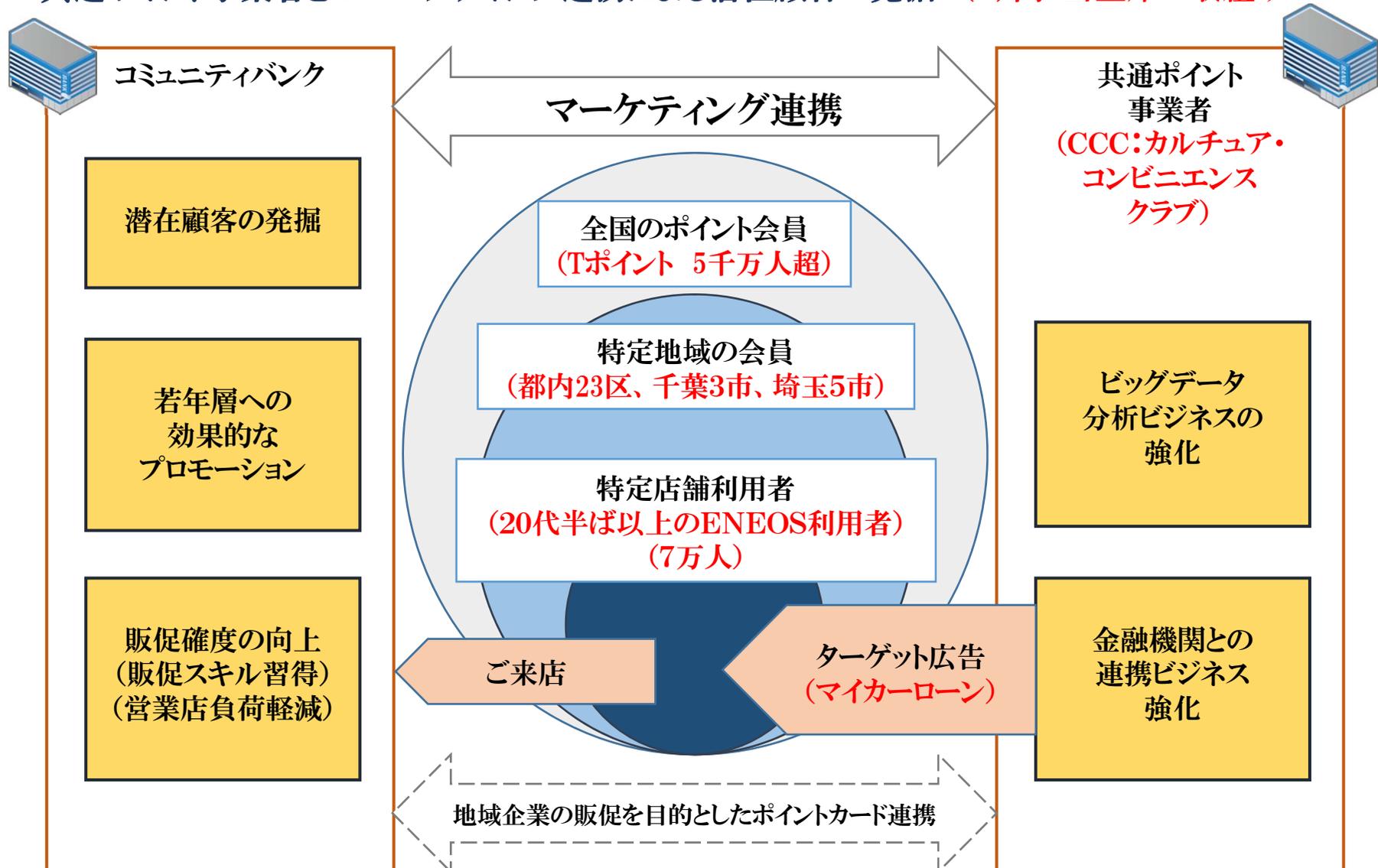
3-1-3. モバイルデバイスを活用した店外活動支援に向けて

【フェーズⅢ】 店外セールス強化



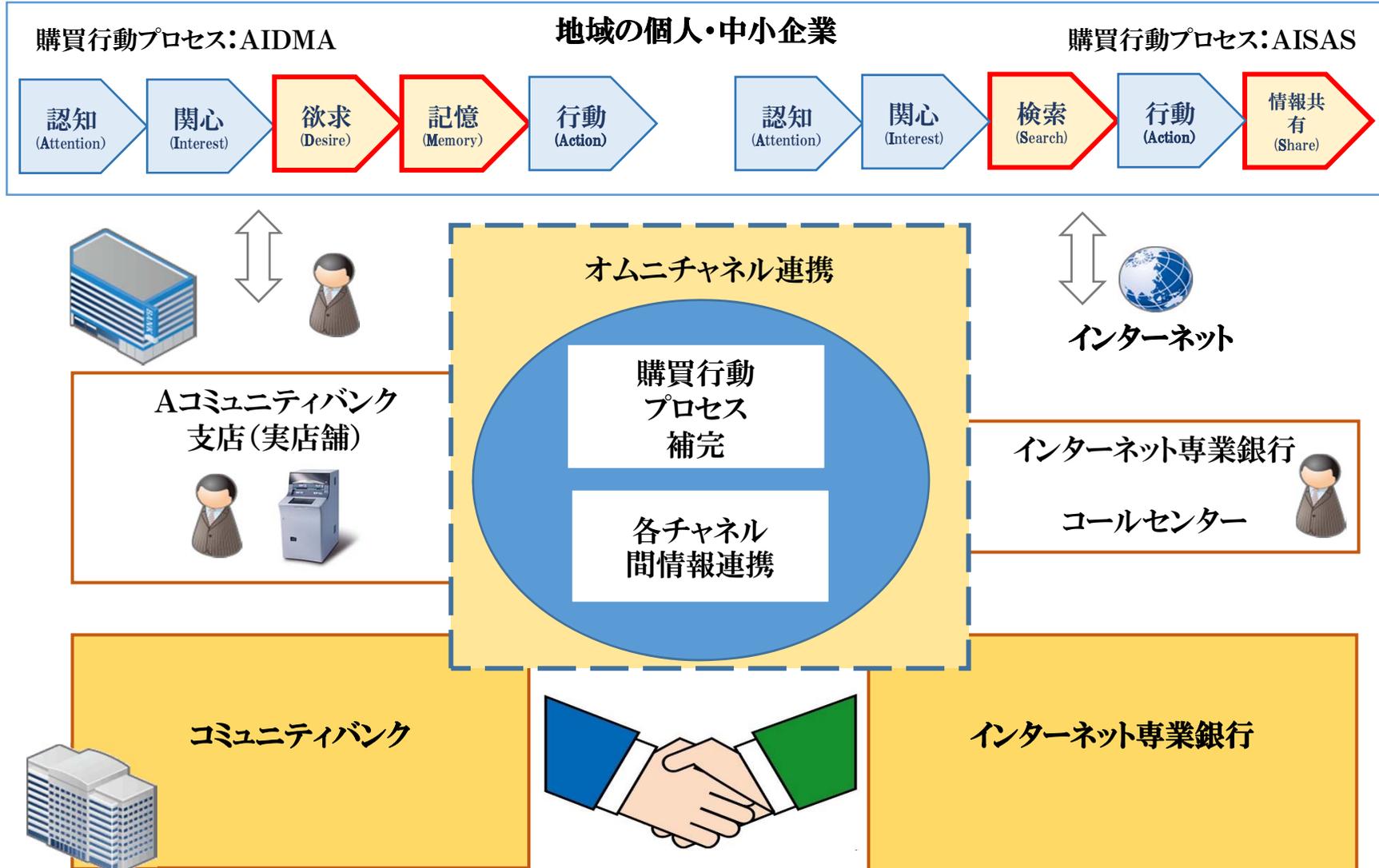
3-2. 異業種コラボレーションによる効果的なマーケティングの実践

共通ポイント事業者とのマーケティング連携による潜在顧客の発掘 ()内:当金庫の取組み



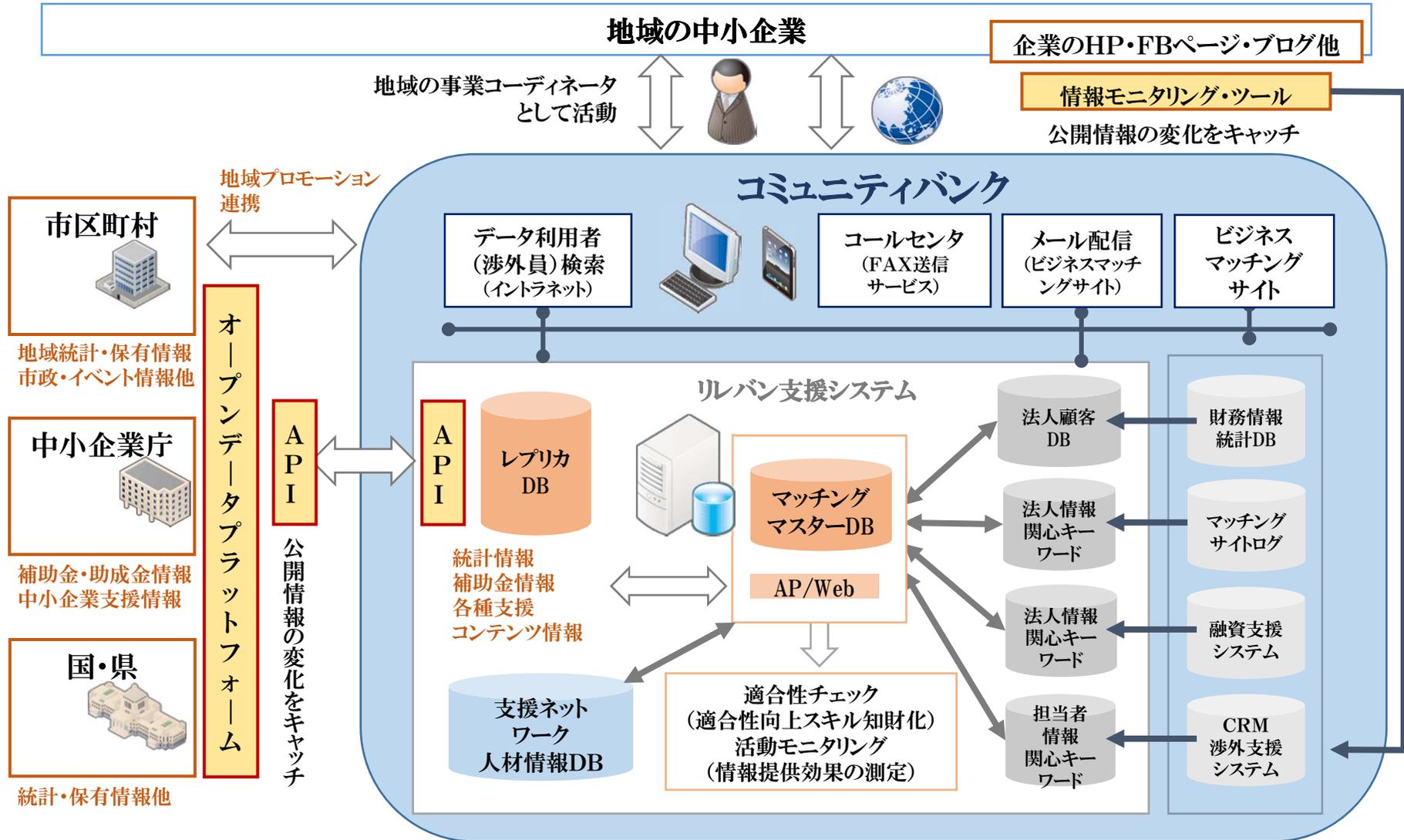
3-3. 業界の枠を超えたオムニチャネル戦略構想

リアル(実店舗)とバーチャル(ネット店舗)の相互補完スキーム。



3-4. オープンデータを活用したリレーションシップバンキング高度化戦略構想

企業の本業支援に繋がる情報をタイムリーに提供。地域の情報BANKとして資金需要喚起。



ここで生きていく。 

このまちとあわせに。
10年先もこの先も。

 街の鼓動に敏感です
朝日信用金庫

